

ぶんぼう

① N です。 れんしゅう 1-2

「です」は、丁寧な断定を表す助動詞である。[desu]の最後の母音[u]が無声化し、[des]と発音することが多い。名前や職業、身分、性質などに使う。

ピヤです。
むすめです。
友だちです。
いしゃです。

文の終わりには、記号のまる「。」を書く必要がある。この記号は、英語の period 「.」と同じものである。

「N です。」の否定形は「N ではありません。」である。文中の「は」は、[wa]と発音する。

かいしゃいんではありません。
むすめではありません。

② N は れんしゅう 3

「は」は[wa]と発音する。「は」は、文の主題(トピック)=話者の話したいことを示す助詞である。文の主題の後に「は」をつけ、それに関する情報などを述べたりする。

母は こうむいんです。
あきこさんは こうこうせいです。
父は かいしゃいんではありません。
ナッターさんは こうこう^にねんせいではありません。

③ S か。 れんしゅう 4-5

「か」は、文の終わりにつき、疑問文をつくる助詞である。

お父^{とう}さんですか。
ニパーさんは せんせいですか。

話し手と聞き手にとって、その述語(疑問詞)が明確な場合、述語が省略されることがある。そのとき、文の主題「N」を残して「N は?」と言う。「は?」の発音は、質問する時と同じように文末を上昇させて発音する。

おなまえは? (↗)
ナッターさんは? (↗)

④ 肯定と否定の答え方 れんしゅう 4-5

4.1 肯定の答え: 3つの表現を例に挙げる。

質問 : ピヤさんは かいしゃいんですか。

答え 1: はい。

(英語の YES)

答え 2: はい、そうです。

(タイ語の [pen chên nán khá/ khráp][chây léew khá/ khráp])

答え 3: はい、かいしゃいんです。

(質問の内容を繰り返して答える。)

4.2 否定の答え: 4つの表現を例に挙げる。

質問 : ピヤさんは いしゃですか。

答え 1: いいえ。

(英語の NO)

答え 2: いいえ、ちがいます。

(タイ語 [mây chây khá/ khráp])

答え3: いいえ、いしゃではありません。 (述語を否定形にして答える。)

答え4: いいえ、かいしゃいんです。 (正しい情報を言う。)

また、記号のてん「、」は、英語の comma 「,」と使い方は同じである。

⑤ **N も**

れんしゅう 6-7

「も」は、タイ語の[kəw...dūay]、英語の also と同じ意味で、助詞である。この課で紹介した「は」に置き換えられ、「N も N です。」の文型を作ることができ、「N も」同じ身分や性質であることを意味する。

あきこさんは こうこうせい です。ナッターさんも こうこうせい です。

ニルット: 父は かいしゃいんです。

きむら: お母さんも かいしゃいんですか。

また、[kəw...dūay]という意味が必要な文であれば、肯定文、否定文、疑問文問わず、使うことができる。

ソムチャイさんは いしゃではありません。シリラックさんもいしゃではありません。

「も」が用いられている疑問文に対する答えも、[kəw...dūay]という意味が必要である場合のみ、「N も」を使って答えることができる。

A: ラッカナーさんも こうこうせい ですか。

B: はい、ラッカナーさんも こうこうせい です。

それに対して、[kəw...dūay]という意味が含まれない場合の答えは、「N は」を使う。

A: プチョンさんも こうこうせい ですか。

B: いいえ、プチョンさんは だいがくせい です。

また、「N も」はいくつか並べて同時に使うことができる。

あきこさんも ナッターさんも こうこうせい です。

⑥ **国名 + 人^{じん} / 国名 + ご**

れんしゅう 6-8

6.1 「国名+人」は、その国の国民のことである。タイ語で[chaaw...][khon...]である。

タイ人、日本人、イギリス人、マレーシア人、オーストラリア人、
シンガポール人、アメリカ人、なに人

6.2 「国名+ご」は その国の言語のことである。タイ語で[phaasaa...]である。

タイご、ドイツご、フランスご、ちゅうごくご、なにご

国名を用いない例外もある。

えいご、アラビアご

★「~人」も「~ご」も接尾語で、単独では用いられず、国名などと結合して複合語を作る。

⑦ **N1 の N2**

れんしゅう 8-9

「の」は、名詞と名詞の間に置かれる助詞である。「N の」は、後者の「N」を修飾する働きを持っているが、語順はタイ語と逆である。「N の」の意味と用法は以下の通りである。

7.1 「N の」は、後者の「N」の所有者や所属を表す。

ボディンさんの お父さんは けいさつかんです。

ニパーさんは ナッターさんの お母さんです。

「N」の所有者を聞きたい場合、「だれの」で疑問文をつくる。

A: ピヤさんは だれの お父さんですか。

B: ナッターさんの お父さんです。

7.2 「N」は、後者の種類や性質を表す。

オンヌチャーせんせいは しゃかいの せんせいです。

「N」の種類や性質について聞きたい場合、「なん+の」で疑問文をつくる。

A: ノンヌットせんせいは なんの せんせいですか。

B: ちりの せんせいです。

⑧ そうですか。

まんがでまとめ

相手から与えられた新情報を聞いて理解や納得した時によく使う相槌表現である。また、最後の「か」の音を低く下げて発音する。

ナッター: ウドムさんは こうこう^{いち}1ねんせいです。

あきこ : そうですか。(↘)

ぶんぼう

① Nが います／あります。

れんしゅう 1

「が」は、主語を示す助詞である。「います／あります」は、肯定形の動詞である。「います」は人間と動物などの生き物の存在を表し、「あります」は物や植物などの無生物の存在を表す。タイ語で[mii yùu]という。

否定形は「いません／ありません」である。

〈ノップの学校の先生について〉

リー：日本人の せんせいが いますか。

ノップ：はい、います。

〈教室にある物について〉

リー：とけいが ありますか。

ノップ：いいえ、ありません。

② 位置を表す名詞

れんしゅう 2-3

位置関係を表す言葉は名詞である。

上、下、そと、中、ひだり、みぎ、まえ、うしろ、となり、そば

位置関係を表す言葉は一般の名詞と同じ用法である。

みぎの たてものは しょくどうです。

上に きょうしつが あります。

あきこさんの うしろの 人は だれですか。

主語や名詞を修飾する場合、第1課の「NのN」の文型と同じように使う。タイ語では、位置を表す言葉は前置詞であるが、日本語では名詞となっている。第1課で説明したように語順に注意する必要がある。

つくえの ^{うえ}	いすの ^{した}	まどの ^{そば}
かばんの ^{なか}	わたしの ^{ひだり}	本だなの ^{ほん} みぎ

③ (場所)に Nが います／あります。

れんしゅう 2-4

人間や動物、物が存在する場所や位置を言う時、「(場所)に」を使う。

〈「どこに何があるか」の情報を与える時〉

きょうしつに ^{シーディー} CDプレイヤーが あります。

りょうの ^{まえ} 前に でんわが あります。

いすの ^{した} 下に いぬが います。

木の ^{うえ} 上に とりが います。

がっこうに フランス人の ^{せんせい} せんせいが います。

その場所に存在する人や物を聞く時、「だれ(人)」と「なに(物)」の代名詞を使う。「なに」はタイ語の疑問詞[arai] 英語の what と同じく、人以外の生き物と物のどちらの場合でも使うことができる。

きょうしつに ^{だれ} だれが いますか。

どうぶつえんに ^{なに} なにが いますか。

りょうに ^{なに} なにが ありますか。

第1課の⑤「Nも」と同様に、他にあるどうか聞く時、「が」の代わりに「も」を使う。

- A: ばいてんに パンが ありますか。
B: はい、あります。
A: ジュースも ありますか。
B: はい、ジュースも あります。

「はい、あります。」のように、「ジュース」を省略することもできる。また、上記に説明した「も」を含む疑問文を否定する場合、「は」を使う。

- A: ばいてんに パンが ありますか。
B: はい、あります。
A: ジュースも ありますか。
B: いいえ、ジュースは ありません。

否定する場合でも、「いいえ、ありません」と主語を省略することもできる。しかし、主語を省略しない場合、聞かれたものはないが、他のものはあるという意味が含まれる。つまり、上記例文の場合、ジュースはないが、他のものならあるというニュアンスが含まれる。

「も」は、ひとつの文の中に、二つ以上使うこともできる。

- 日本人の せんせいも います。
としょかんに 日本ごの しんぶんも えいごの しんぶんも あります。

④ (場所)にも

れんしゅう5

「(場所)にも」は、Nの存在する場所が二つ以上あるという並立・付加の意味を表す。この場合も、「も」を二つ以上並べて使うことができる。

- A: マルチメディアルームに コンピューターが ありますか。
B: はい、あります。としょかんにも あります。

しかし、物や人の場所が多様挙げられた場合、話者の中から取り上げて、たずねる必要がある。そのため、トピックを示す「は」を使い、「(場所)には」を使う。

- A: ひだりは たいいくかんです。みぎは としょかんです。
B: としょかんには、なにが ありますか。

⑤ NとN

れんしゅう6

「と」は、タイ語の[&], 英語の and と同じ意味で、名詞と名詞を接続する助詞である。

- 木の 下に いぬと ねこが います。
やまださんと ジョンさんと すずきさんは エンジニアです。

⑥ N や N

れんしゅう6

「や」は、例として示すとき、名詞と名詞を接続する助詞である。「と」との違いは、例示した「N や N」以外にもまだあるという意味が、暗示されている点である。

- コンピューターしつや マルチメディアルームや としょしつが あります。
ナッターさんや ユワディーさんは こうこうせいです。

⑦ 数 0 - 10

れんしゅう6

0-10の数の数え方は、以下の通りである。

- 0 ゼロ/れい
1 いち 2 に

3	さん	4	し/よん
5	ご	6	ろく
7	しち/なな	8	はち
9	きゅう/く	10	じゅう

人や動物、物などを数える時、タイ語と同様に助数詞が必要である。

「4」や「9」のように、読み方が二つ以上の数字があるが、どちらで読むかは助数詞によって変化する。

また、助数詞の読み方が、数字によって変化するものもある。例えば、建物の階数である。日本語では、建物の階数を言う時も、何階かを言う時も、同様に使う。

* 1	いっかい	2	にかい
* 3	さんがい	4	よんかい
5	ごかい	* 6	ろっかい
7	ななかい	8	はちかい
9	きゅうかい	* 10	じゅっかい
		* ?	なんがい

「4」の時は「しかい」と読まず、必ず「よんかい」と読む。

^{よん}4かいに ^に2ねんせいの きょうしつが あります。

^{ろっ}6かいに りかしつと コンピューターしつが あります。

^{さん}3がいに しょくいんしつや おんがくしつが あります。

⑧ **ここ/そこ/あそこ/どこ**

れんしゅう 7-8

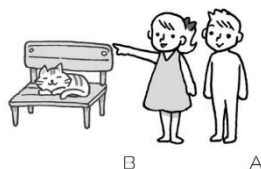
ここ/そこ/あそこ/どこは、場所を示す代名詞である。

ここ	[thîi nîi]
そこ	[thîi nân]
あそこ	[thîi noon]
どこ	[thîi nây]

<話し手と聞き手が同じ場所にいる場合>

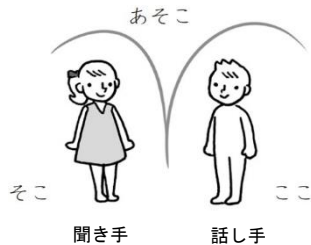


- ここ : 話し手と聞き手に近い場所を指す
- そこ : 話し手と聞き手から少し離れた場所を指す
- あそこ : 話し手と聞き手から離れた場所を指す



- A: あ、ここに ねこが います。
 B: あそこにも います。
 A: どこですか。
 B: 木の ^き下^{した}です。

〈指す場所が話し手または聞き手に近い場合〉



- ここ : 話し手に近い場所を指す
 そこ : 聞き手に近い場所を指す
 あそこ : 話し手と聞き手から離れた場所を指す

- A: そこに わたしの けしゴムが ありますか。
 B: いいえ、ありません。あ、あそこに あります。
 A: どこですか。
 B: せんせいの つくえの ^{うえ}上に あります。

「どこ」は、場所の所在地や名前について、たずねる時に使う。
 また、場所の名前をたずねるときは「どこのN」を使う。

どこの がっこうの がくせいですか。

上記の例文は、学校の所在地よりも、学校の名前を聞いていることが多い。

⑨ N は (場所) に います／あります。
 です。

れんしゅう 7-8

「N」を取り上げ、存在する場所や所在地を言ったり、たずねたりする表現である。

- A: しょくどうは どこに ありますか。
 B: たいいくかんの となりに あります。

 A: トイレは どこですか。
 B: あそこです。

 A: やまかわせんせいは どこに いますか。
 B: しょくいんしつです。

⑩ N か。(↘)

まんがでまとめ

疑問文の終わりにつく「か」を低く下げて発音すると、話者が相手に聞いたことを承知したという意味となる。これは第1課の相槌表現「そうですか。(↘)」と同様に、肯定文のイントネーションで発音する。

- ナレート: しょくどうは あそこです。
 ふくしま: ああ、あそこですか。(↘)

ぶんぼう

① 2桁の数字の言い方

れんしゅう 1-3

11-19 のような二桁の数字は、「10(じゅう)」と「1(いち)～9(きゅう)」を組み合わせる。

11	じゅういち	12	じゅうに
13	じゅうさん	14	じゅうよん
15	じゅうご	16	じゅうろく
17	じゅうしち/じゅうなな	18	じゅうはち
19	じゅうきゅう		

20-90 は、以下の通りである。

20	にじゅう	30	さんじゅう
40	よんじゅう	50	ごじゅう
60	ろくじゅう	70	ななじゅう
80	はちじゅう	90	きゅうじゅう

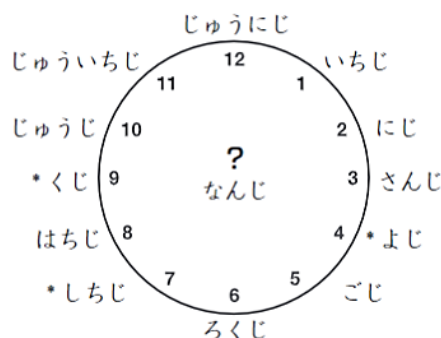
また、21-29 などの数字も、上記の 11-19 と同じように、「1(いち)～9(きゅう)」と「10(じゅう)」で十の位を、「1(いち)～9(きゅう)」で一の位を組み合わせる。

46	よんじゅうろく	89	はちじゅうきゅう
----	---------	----	----------

② 時間の表現

れんしゅう 1-4

2.1 ～じ



時刻を言う時は、1～12の数字を使うのが一般的である。昼か夜かをはっきり言う場合は、「ごぜん」か「ごご」を「～じ」の前に付け加える。例えば、「ごぜん3じ」「ごぜん10じ」「ごご4じ」「ごご9じ」となる。また、「あさ8じ」、「よる11じ」のように、「あさ」や「よる」で区別をすることもできる。

現在の時刻を表す時は「いま」を加える。この場合の「いま」は、副詞の働きをするため、助詞はつかないので注意が必要である。

いま なんじですか。

いま 4じです。

2.2 ～ふん／ぷん

いっ 1ふん	に 2ふん	さん 3ふん	よん 4ふん
ご 5ふん	ろっ 6ふん	なな 7ふん	はっ 8ふん
きゅう 9ふん	じゅう 10ふん		
じゅうご 15ふん	にじゅう 20ふん	にじゅうご 25ふん	さんじゅう 30ふん
さんじゅうご 35ふん	よんじゅう 40ふん	よんじゅうご 45ふん	ごじゅう 50ふん
ごじゅうご 55ふん	ろくじゅう 60ふん		
?なんふん			

分単位の時刻を言うときは、「～じ」に加え、「～ふん／ぷん」を使う。

いま なんじですか。
いま 7じ5^ごふんです。
いま 9じ3^く0^{さんじゅう}ふんです。

また、「～時30分」は「30^{さんじゅう}ぷん」を「はん」と言うこともできる。

いま 9じはんです。

③ 範囲の起点「から」

れんしゅう 5、7

「から」は、場所や時刻の起点を表す助詞である。つまり、出発地点である場所や開始時刻を起点として「から」で表すことができる。第3課では、開始時刻を示す例を挙げている。

ひるやすみは なんじからですか。
ちりは 8じはんからです。

④ 範囲の限界点「まで」

れんしゅう 5、7

「まで」は、場所や時刻の終わりの点(終点)を表す助詞である。つまり、到達点である場所や終了時刻を、終点として「まで」で表すことができる。第3課では、終了時刻を示す例を挙げている。

じゅくは 7じ4^{しち}0^{よんじゅう}ぷんまでです。

開始時刻を示す「から」と一緒に使うことができる。

がっこうは 月^{げつ}よう日^びから 金^{きん}よう日^びまでです。
1じかんめは なんじから なんじまでですか。

⑤ Nが 好きです。

れんしゅう 8

「好きです」は、タイ語の[chôp]、英語の like と同じ意味で、形容動詞である。

日本の ドラマが 好きです。

否定形は「Nが 好きではありません。」となる。

いぬが 好きですか。
いいえ、好きではありません。

第1課の文の主題を表す「Nは」と、一緒に使うことができる。

• あるカテゴリーを主題とする場合

日本の かしゅは だれが 好きですか。
まんがは 「いっきゅうさん」が 好きです。
日本りょうりは やきそばや てんぷらが 好きです。

• 人が主語の場合

わたしは くだものが 好きです。
ワサンさんは バasketボールも サッカーも 好きです。
わたしは パパイヤと すいかが 好きです。

⑥ (時点)に V

「に」は、動作の行われる時点の後ろにつく助詞である。動作の行われる時点を示すため、動詞文にのみ使われる。この課では、「はじまります」「おわります」の動詞で紹介する。

日本ごは 10じ10ふんに はじまります。

れきしは ごご 1じ55ふんに おわります。

動作の行われる時点を主題として取り上げる場合は、「(時点)+には」を使う。

金よう日には うちに いません。

4じには じゅぎょうが ありますか。

⑦ これ、それ、あれ、どれ

「これ、それ、あれ、どれ」は、物を指す代名詞である。第2課の場所を示す「ここ、そこ、あそこ、どこ」と同様に、話し手と聞き手、その物との距離・遠近関係を考慮して用いなければならない。

これ 話し手に近い物 [nii] [an nii]

それ 聞き手に近い物 [nân] [an nân]

あれ 話し手にも聞き手にも遠い物 [nôon] [an nôon]

どれ いくつかの中のどれかを聞く [an nây]

<鈴木が、ウドムが手に持っている本について聞く>



すずき: それは なんの 本ですか。

ウドム: これですか。日本の うたの 本です。

<果物を買う時、ドリアンを見たことがない鈴木がウドムにドリアンを見せてもらう>



すずき: ドリアンは どれですか。

ウドム: あれです。マンゴーの みぎです。

ぶんぼう

① 「ます」形の動詞

れんしゅう1

「V ます」は、動詞の丁寧な形(ます形)である。タイ語とは異なり、日本語は動詞が文末にくる。また、否定形は「V ません」である。

1.1 未来に起きる動作、おこなわれる動作

質問 : 行きますか。

肯定の答え: はい、行きます。

否定の答え: いいえ、行きません。

5時に かえります。

1.2 習慣、一般的な事実の出来事

学校は 3時に おわります。

毎日 行きます。

② (場所)へ V移動動詞

れんしゅう1-2

「へ」は、移動を表す動詞や目的地(到着場所)の後ろにつき、方向を示す助詞である。[e]と発音する。この課では、「行きます[pay]」「来ます[maa]」「かえります[kláp]」の移動動詞を取り上げている。

日本へ 行きます。

学校へ 来ますか。

リーさんは うちへ かえりません。

A: どこへ 行きますか。

B: ゆうびんきょくへ 行きます。

③ (乗り物)で V移動動詞

れんしゅう3

「で」は、手段や方法を表し、乗り物などの名詞の後ろにつく助詞である。

ふねで アユタヤへ 行きます。

父の くるまで かえります。

日よう日に ひこうきで 来ます。

徒歩で移動する場合、「あるいて」+ 移動動詞という形を使う。

あるいて ぎんこうへ 行きます。

行く方法を質問するときは、「どうやって」を使う。

A: どうやって うちへ かえりますか。

B: タクシーで かえります。

④ (共同行為者)と V

れんしゅう4

「と」は、一緒に動作をする相手を示し、その相手の後ろにつく助詞である。

A: だれと チェンマイへ 行きますか。

B: かぞくと 行きます。

ある動作を単独で行う場合、「ひとりで」を使う。

ひとりで うちへ かえります。

⑤ **起点「から」／到達点「まで」**

「から」は始まる点を、「まで」は終わる点を示し、時点（時刻）や場所につく。第3課では、範囲の起点「から」と範囲の終点「まで」を解説したが、この課では、場所の起点「から」と到達点「まで」の用法を取り上げる。

うちから ^{がっこう}学校まで ^{じてんしゃ}じてんしゃで 行きます。
^{にじゅうはち}28ばんの バスは どこまで 行きますか。
^{まいにち}毎日 うちから あるいて 来ます。

⑥ **時間の表現**

時間の長さを表す時は、時刻「～時」の後に「～間」をつける。

^{いちじかん}1時間 ^{ろくじかん}6時間 ^{くじかん}9時間 ^{じゅうにじかん}12時間
^{じゅうよじかん}14時間 ^{さんじゅうじかん}30時間 ^{よんじゅうごじかん}45時間 ^{じかん}なん時間

7時間は「しちじかん」とも「ななじかん」とも言う。

分単位の場合、時刻の分と同様に「ふん/ぶん」という言葉を使う。

「～時間」の後にそのままつけて言う。例えば、

^{さんじかんじゅうごぶん}3時間15分 ^{にじかんじゅうぶん}2時間10分

時間を伴わず、分数だけを言う時は、「～間」をつけて言うことも可能である。

^{にじゅうぶんかん}20分間

～時間と30分間を表す時は、二種類の言い方がある。例えば、1時間と30分間の場合は、

「^{いちじかんはん}1時間半」または、「^{いちじかんさんじゅうぶん}1時間30分」を使う。しかし、三十分間を単独で言う場合、「^{はんじかん}半時間(はんじかん)」と言わず、「^{さんじゅうぶん}30分」と言うのが一般的である。

たいいくは ^{いちじかんはん}1時間半です。

⑦ **(時間の長さ) かかります**

ある事柄やある動作の所要時間を示す表現である。この課では、移動における所要時間を取り上げる。

ここから ^{じてんしゃ}れっしゃで 4時間 かかります。
 じゆくまで 15分 かかります。

おおよその所要時間を言いたい場合は、時間の長さの後に「ぐらい」という助詞をつける。

パタヤまで バスで 2時間ぐらい かかります。
^{がっこう}学校から 父の ^{かいしゃ}かいしゃまで 30分ぐらい かかります。

所要時間を聞く場合は「どのぐらい」を使う。あるいは、「なん時間」「なん分」で聞くこともできる。そして、答えは動詞を省略して「です」で答えることも可能である。

A: うちから ^{がっこう}学校まで どのぐらい かかりますか。
 B: バスで 40分ぐらい かかります。
 A: プーケットから ^{じかん}なん時間 かかりますか。
 B: ふねで ^{いちじかん}1時間ぐらいです。

⑧ **時を表す言葉 V**

時を表す言葉は、以下の通りである。

きょう	あした
あさ	よる
ゆうがた	まいばん
<small>まいにち</small> 毎日	いま

動作の時間を表し、動詞を修飾する場合は、助詞「に」をつけない。

まいにち毎日 ここへ き来ます。
きょう じゅくへ い行きます。
いま かえりますか。
こんばん チェンマイへ い行きます。

その時間に何が起こるか、何をすることをトピックとして取り上げたい場合は、助詞「は」をつける。

きょうは じゅくへ い行きます。

⑨ **このN、そのN、あのN、どのN**

まんがでまとめ

「このN、そのN、あのN、どのN」は、特定のNを指し示す指示詞である。話し手と聞き手、その物との距離・遠近関係の点では、第3課の「これ、それ、あれ、どれ」と同様である。しかし、「この、その、あの、どの」は代名詞ではないため、単独では用いられない。つまり、名詞を修飾し、必ず名詞の前にくる。その名詞は人や動物、物、時間、場所など、特に制約はない。

このN	話し手に近い名詞を修飾する
そのN	聞き手に近い名詞を修飾する
あのN	話し手にも聞き手にも遠い名詞を修飾する
どのN	いくつかの中のどれかを聞く

あきこ : あのふねは なんですか。
スリーラット: あれは ふねの バスです。
(あれ = あのふね 話し手にも聞き手にも遠い)

この バイクで がっこう学校へ い行きます。
(= バイクは話し手の近くにある。)

セーンケーさんは どの 人ですか。
(= 女の人がたくさんいる。どの人なのか、分からない。)

指示詞「コ、ソ、ア、ド」の単語は第2課、第3課、第4課に出ているが、話し手、聞き手、その物との距離・遠近関係の概念は同じである。しかし、それぞれの課では、場所や物など、何を示しているのかが異なっている。また、代名詞の場合は、その代名詞が指した名詞に、特に制約がない。